

## 「志木の田子山富士塚と新河岸川舟運の歴史を訪ねる」

令和7年5月7日 記 國谷征治

実施日：令和7年5月1日(木)

参加者：24名

集合場所：JR新秋津駅前 午前9時30分

行程：JR新秋津駅 9時44分発 北朝霞駅乗換 東武東上線朝霞台駅 10時04分  
志木駅東口からバスに乗車 富士道バス停下車・田子山富士塚着 10時40分

案内人：志木のまち案内人の会会長 新田泰男様  
志木の田子山富士保存会副会長 深瀬 克様 他5名

配布資料 ①志木の田子山富士塚 パンフレット  
②しきし歴史マップ（志木編、宗岡編）  
③田子山富士塚保存会会報  
④志木カップ像巡りマップ

### 1) 「志木の田子山富士塚」

明治5年(1872)6月築造、令和2年(2020)3月に国(文化庁)より「重要有形民俗文化財」に指定された。

当日は天候にも恵まれ五月晴れの下、新緑の敷島神社境内に用意された椅子席で深瀬克様から、田子山富士塚及び敷島神社の歴史について、紙芝居による説明があった。

田子山富士塚は国指定重要有形民俗文化財の5件ある中の一つで毎年〔山開き〕と〔山仕舞いのお焚き上げ〕が盛大に挙行されている。

### 2) 「敷島神社の名前の由来」

江戸中期の国学の四大人といわれた本居宣長の詠んだ和歌 『敷島の大和心を人とはば朝日に匂ふ 山桜花』の枕詞から命名された。

### 3) 「田子山富士塚の登山」

1班と2班に分かれて入れ替え制で実施した。案内人の説明を聞きながら約9mの山頂を目指して、富士山から運び込まれた2000個余りの溶岩のある、つづら折りの山道を登った。下山した後、案内人の説明で周囲約125mの築山にある、石碑や御胎内などの史跡を一周した。

予定時間をオーバーしたが、1班、2班とも無事に田子山富士塚の登山を終了した。

### 4) 「旧村山快哉堂 市指定文化財」

配布資料 ①伝統的建造物旧村山快哉堂 パンフレット  
②引又宿古絵図  
③旧河川と河岸場

旧村山快哉堂は、明治10年(1877)に建築された木造2階建て土蔵造りの店蔵で、本町通りに面して屋敷を構え、「中風根切薬」「分利膏」「正齋湯」などの各種家傳薬を製造、販売

する薬店であった。

案内人による建物内の造りと当時座売りであった話と引又宿古絵図により昔の村山家の話を聞くことができた。

#### 5) 旧河川と河岸場と題して新田泰男様より、新河岸川の舟運についての説明

①河岸場のあった場所

②新河岸川の川筋〔蛇行〕が流れを緩やかにして、舟運に適している。

③引又河岸場が隆盛になった要因。

寛永15年(1638)川越大火があり、仙波喜多院、東照宮、中院、をはじめ城下町の大半が焼失した。江戸城紅葉山にあった慶長期の建物を移築するために舟運を使い川越に運んだといわれている。

当初の予定より終了時間が遅くなりましたが、最後に旧村山快哉堂をバックに全体写真を撮り市役所前バス停から乗車して、志木駅東口の待ち合わせカッパ像前で解散した。

【参考】東京都内には、50数か所の富士塚がありますが、国指定重要有形民俗文化財の富士塚は、①「下谷坂本の富士塚」文政11年(1828)築造、高さ約5m直径約16m ②「江古田の富士塚」江戸時代後期に築造されたと考えられている、高さ約8m直径約30m ③「豊島長崎の富士塚」文久2年(1862)築造、高さ約8m直径約21m

担当 Eグループ

國谷征治 内野克彦 恩田正子

